【編集後記】

あなたは
愛する人の死を　忘れない
残る身の不幸を　忘れない
愛は　忘却を　許さない

なのに　あなたは
他人の不幸に　壁になり
告白は　嘘だとなじって
震える人を　また殺す

世のなか
理不尽な　あなたが
多すぎる

戦(いくさ)は　死の簒奪から始まる
国家は　その心を仕掛ける

愛する者のために　行った戦が
愛する者を　慟哭の海へ沈める

拳で殴打された　少年の屈辱も
力で凌辱された　少女の恐怖も
なかった　ことにして

戦場で逝った　父と兄の悔恨と
空襲で逝った　母と姉の無念を
国家へ抵当に　差し出せば

狂気の時代の　足音がする
憂鬱な　この頃

「学徒は真理の使徒である。学徒の意図は国家の真実を護ること。学徒の魂は真実のない国家よりも、国家のない真実を求める」／「私は限りなく祖国を愛する　けれど　愛すべき祖国を私は持たない　深淵をのぞいた魂にとっては・・・」／「抵当にされた俺の生命、明けくれ湿っぽい質やのくらに憔悴している」／「私の時間は泣いているのに私の時計は笑っている」(日本戦没学生記念会編『きけわだつみのこえ』より抜粋)

このような戦争批判の言葉を記して死んでいった学徒兵たち。私たちは、彼らの地の声に胸を張れる時代を生きているだろうか。読むたびに苦渋の思いが胸に迫る。もう戦争はごめんだ。何千万回と繰り返された言葉が、情けないことにまだ必要なこの時代。・・・人間の悲惨を憂い、怒り、叫ぶ。そのようなパッションを抱き、冷徹に悲惨を分析した論考が今号も揃った。一

つひとつの論考がなにを叫んでいるのか。読者の心に跳ね返らんことを祈る。投稿者もグローバルになった。日本語雑誌ではあるが、投稿者を世界にも募る。これも今後の本誌が切り開く道である。世界に、部落問題に関心を寄せる、日本語が堪能な研究者が増えている。

(A)